

北海道がんセンター通信

2021 第57号 FEBRUARY



本館 1階・エントランスホール

CONTENTS

● 令和3年度を迎えて	院長 加藤 秀則 2
● 新年のご挨拶	副院長 永森 聰 3
● 新型コロナウイルス感染から学んだこと。 そして当院への期待と自分のなすべきこと。	副院長 高橋 将人 3
● 念頭のご挨拶	統括診療部長 平賀 博明 4
● 新病院紹介	
「病棟」	病棟診療部長 大泉 聰史 5
「外来」	外来診療部長 藤川 幸司 6・7
「手術室」	手術部長 原林 透 8
「リハビリテーション科」	リハビリテーション科医長 小山内俊久 9
「緩和ケア」 10
「その他」 11
● がん検診のご案内 12



北海道がんセンターの理念

私たちは、国民の健康のために、良質で信頼される医療の提供に努めます。

(基本方針)

1 都道府県がん診療連携拠点病院の使命を果たします。
常に医療の質と技術の向上を目指します。
2 医療安全を確保し、安心できる医療を提供します。
3 患者さんの権利を尊重し、誠実な医療を実践します。
4 研究、教育研修を推進し、医学・医療の発展に寄与します。

令和3年を迎えて



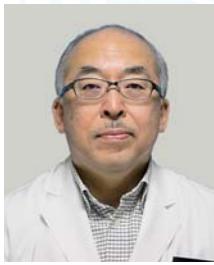
院長 加藤 秀則

1昨年、1期目の新築工事が完成しました。これは主に放射線・検査部門で、放射線診断では2台のMRIと新しいPETの運用が始まり、治療では最新の放射線照射装置が設置され、従来の装置を含め3台の装置がフル稼働で高精度放射線治療が行われています。検査部門も一新され、新しいがんゲノムパネル診断も軌道に乗って定期的に遺伝子検査結果の検討会が開かれ、標準治療の終わった患者さんへの新しい抗がん剤の提案がなされています。新型コロナウイルスのPCRも含めて院内で様々な気道感染を起こすウイルスの検査ができるようになっています。

それに引き続き、2期目の外来・病棟部門が昨年11月24日にオープンしました。診療施設のすべてが同じ敷地内で新しくなりました。外来はホスピタルストリートと呼ばれる直線の広い廊下の両側に50を超える多数の各科外来診察室が配置されました。30床の化学療法室もフル稼働に近く、年々増加する外来抗がん剤治療に対応しています。将来的には仕事との両立を考え、夜間や休日も稼働する化学療法室にしたいと思っております。病室も3割ほどを個室にしプライバシーを保ちやすい療養環境を作っています。大部屋も基本4人ですが、部屋もベッド間隔も広く、いわゆるソーシャルディスタンスが入院中も充分保てると自負しております。最上階にはテラスを持った、全室個室26床の、待望の緩和病棟も開棟しました。緩和医療専従医も4人に増え、より充実した体制になりました。その他割愛しますが、様々な新しい設備が完成しています。

このようなハード面の更新と並行して医療提供体制のさらなる充実も行っていきたいと思います。いつも書かせていただいているチームワークの充実です。昭和の、私が医師免許をとったような頃は数人の腕のいい外科医が呼吸のあった看護師と難易度の高い手術を完了する、優秀な呼吸器内科医がレントゲン写真を読影し、適切な抗生素で肺炎を治してくれる、産科医が胎児心拍の異常を察知して緊急で帝王切開し、母子ともに救命する、などなど、各診療科単位で（良い）医療は完遂できていました。しかし、現在は良い医療の実践には、横のつながりの連携の良いチームが必須です。

院内の感染症をコントロールする対策チーム、がんと闘いながらより良い生活を送るためのリハビリテーション、安らかな終末期を過ごすための緩和、病院の毎日を支える医療安全、栄養サポート、褥瘡対策など多くの多職種（医師、看護師、薬剤師、各種技師、栄養士、社会福祉士、事務職など）横断チームが活動を、より良く高めてゆくことを職員一同、目標にしていく一年でありたいと思います。



副院長 永森 聰

新年のご挨拶

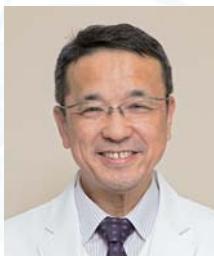
謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

現在の国内外の状況は、一向に治まらないコロナへの対策と経済を回すことの両立が叫ばれていますが、さて皆さんこの経済という語は本来中国の古典にある「経世済民」を略したものであることは覚えておられたでしょうか。つまり世の中をよく治めて人々を苦しみから救うこと、あるいはそうした政治をいうとされていました。しかし当然のことその語源の意味は失われ、現在では経済を回すとは単に冷え込んだ消費活動を元に戻して、国民に所得を保障する事とほぼ同義となってしまいました。それはそれで大変重要なことなのですが、同時に国民を苦しみ(感染)から救うというのは、結局我々人類に対する究極の課題なのだと感じています。

次に昨年の当院を振り返りますと、前半はほぼコロナの院内感染対応に追われてきましたが、後半は感染対策と安全ながん治療を両立させるため、専門性を重視した入院、外来、手術などのタスクフォースを立ち上げ、さらには事業継続計画（BCP）を細部に渡って策定した結果、無事新年を迎えることができました。

さらに各階に陰圧室も完備した新棟(本館)の供用が11月より開始され、新しく広い病棟で、ハード、ソフト両面での充実した環境のもとで、今後しばらく続くウィズコロナの時代を乗り切る準備は整ったと思っています。

ただ現状では、感染回避の観点からは検診の先延ばしなども起きており、本来早期発見早期治療が大原則のがん治療にゆがみが生じて来ています。その中で当院は充分な感染対策と安全ながん治療を両立させるため、職員一丸となって邁進する所存です。



副院長 高橋 将人

新型コロナウイルス感染から学んだこと。 そして当院への期待と自分になすべきこと。

昨年4月に突然当院のクラスター発生し、大変な嵐に巻き込まれることになりました。「まさかうちの病院で！何かの間違いでは？」と正直思いました。当時は一般用のマスクも不足しており、貴重なN95マスクやPPE防護服を節約してどのように活用すべきかという点まで考えなければならないような状況でした。院長、副院长、感染対策会議のメンバーと、保健所から報告される昨日のPCR結果で、毎日侃々諤々作戦を練り直すそのような日々が続きました。病院全体が精神的にも大変な時期でしたが、実は一番つらかったのは患者さんであり、その家族だったと思います。いつ安心して自分は治療してもらえるのだろうか？この病院にかかるて大丈夫だろうか？という不安を抱かせてしまいました。大変申し訳なかったです。

ただ誇らしく感じる事もありました。当院の多くの医師や看護師、コメディカルは、このような患者さんの不安に向き合い、治療延期になってしまう説明やその影響、必要な場合は転院の紹介など、朝から夕方までお一人お一人に電話などで真摯に対応していました。本当に頭が下がる思いでした。

新型コロナウイルスは本当に厄介で憎らしい存在です。しかしその陰で、とても優しく人として尊敬できるスタッフが、我々の病院にはたくさんいることもわかりました。私の役割は彼らに充分に力を発揮してもらえるような環境作りを行い、最終的には、患者さんとその家族に当院を選んで正解だったと感じてもらうことだと思っています。今後ともよろしくお願ひいたします。

病棟

hospital ward



本館 7階・4床室



本館 7階・1床室

念頭のご挨拶

統括診療部長
平賀 博明

明けましておめでとうございます。

この度、令和3年1月1日付けで統括診療部長を拝命致しました。

今年は新型コロナウイルス感染症の蔓延を昨年からひきずり、重苦しい年初となりました。新型コロナウイルスは「食事をしながら会話しコミュニケーションする動物」である「人」に巧妙な手口で感染し広がっています。そして、経済の維持と感染対策という理論的に相反する2つの目的を達成することができます多くの人が苦しんでいます。

医療施設も経営と院内感染対策という2つの目的の間で揺れ、疲弊しています。患者さんは診療を受けたいという気持ちと感染を避けたいという気持ちの間で悩まれています。ワクチンがこれらをすべて解決するかどうかは最低でもあと1年ほどかかると思いますが、それまでは、あるいはその先も、すべてが感染蔓延前の状態に戻ることはないといわれています。

院内外の会議は所謂3密のなかで行われてきましたが、ほぼすべてがweb会議になっています。これらは多くがこのままの形式に留まるでしょう。学会や研修会はweb形式では目的が達成できないこともあるので、もとの状態に戻るかもしれません。

診療は従来行われてきた対面式から、現在のようにオンライン診療を組み入れたものが残るのではないか。私達ができることは、少し先を見据えながら、今やるべき事を一つ一つ丁寧に解決していくことにつきのではないかと考えております。

医療機関および患者の皆様方のご健康並びにご多幸を心からお祈りし、念頭の挨拶といたします。

本館 7階・廊下



本館 7階・スタッフステーション



本館 7階・特床室



本館 7階・デイルーム

病棟診療部長
大泉 聰史

2020年新病院への移転 一多くの苦難を乗り越えて一

2020年度は、全世界への新型コロナ感染という近年でも類をみないパンデミックが発生して、まさに世界史に刻み込まれる年になりました。東京五輪を始めとして、多くの大イベントが延期または中止となりましたが、当院にとっては新病院への移転という節目の年になりました。実は私も国立札幌病院だった時代に初期研修をしていますが、あらためて調べてみると昭和32年開業の施設をベースとして増改築を繰り返し、昭和61年には（移転前の）病院施設になったとのことです。

本来なら9月末に移転予定でしたが、当院で春先に新型コロナ感染のクラスターが発生したために、約2ヶ月延期となり、11月22日に念願の新病院移転となりました。本来であれば、入院中の患者さんは外出泊などしていただき、ご負担をお掛けしないように準備しての移転が望ましいのですが、新型コロナ感染の影響でそれもできず、入院中の患者さんには多大なご協力をいただきました。

新病院の設備としては、地下1階には放射線部・薬剤部・栄養管理室、1階と2階は受付・外来・外来化学療法センター・各種検査室、さらには売店・レストラン・カフェ、3階に手術部があり、3階～7階は一般病棟、そして8階が緩和ケア病棟およびリハビリ部門となっています。

特徴としましては、個室が多くなったこと、6人部屋はなくなり最大で4人部屋になったこと、トイレや洗面所が多くなり各部屋に対応するようになったこと、そして8階に新しく緩和ケア病棟が新設されたこと、などになります。また以前のナースステーションではガラス窓を開けて職員にお話いただきましたが、今の時代の病院スタイルに合わせてオープンに声をかけていただけるようになっています。

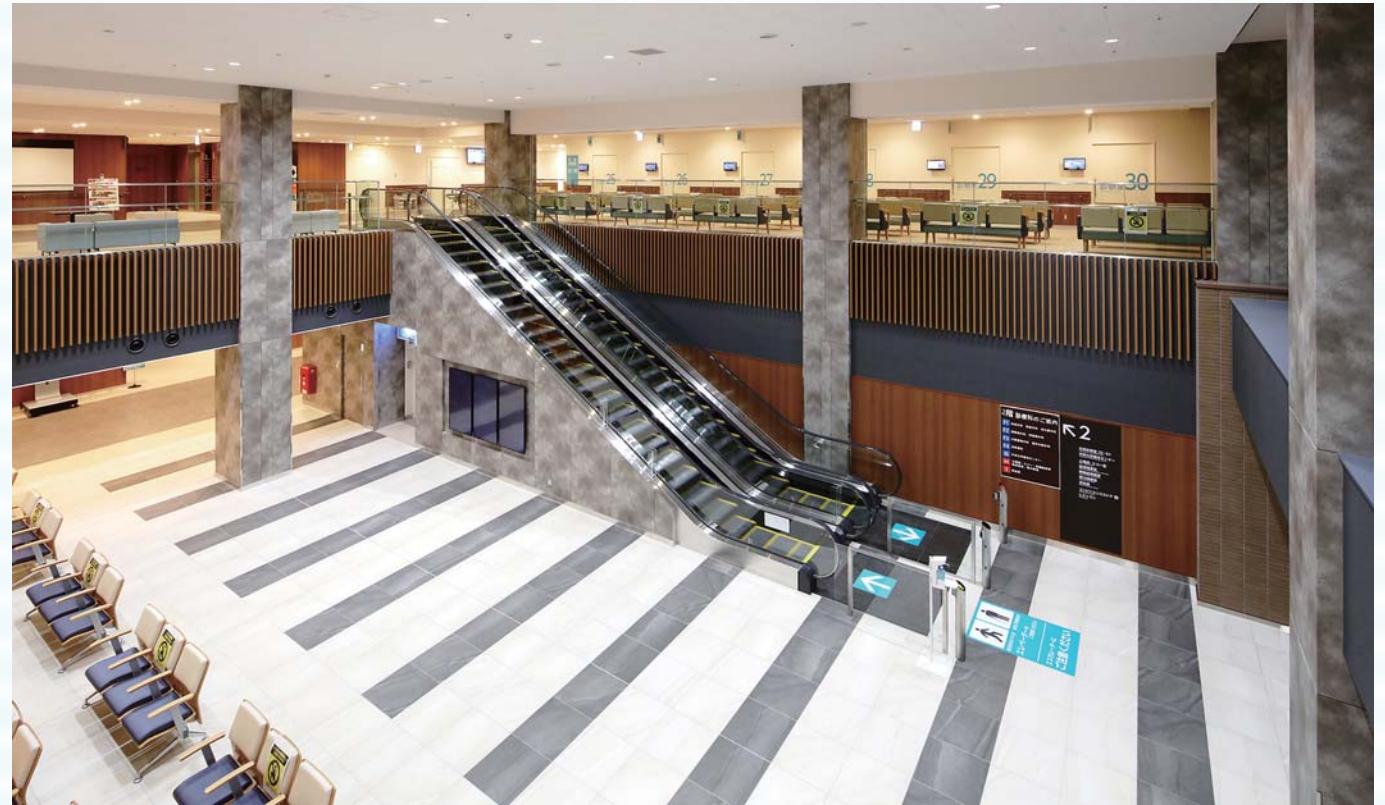
そのような新病院をどんどん患者さんやご家族、その他関係者の皆様に見ていただきたいのですが、病院訪問や病室面会などに制限をかけなければいけない状況がずっと続いている、もどかしい気持ちです。

新型コロナ感染が終息する日が近いことを願いながら、職員一同また新病院で頑張ってまいります。引き続き、患者さんのご紹介などご高配をいただけますと幸甚です。

今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

外来

out patient care



本館 1階・エントランスホール（2階より見る）

外来診療部長
藤川 幸司

2020年11月24日、新病院が開院しました。2018年9月には新病院本館の一部が晴れ晴れしくオープンしましたが、その後、新型コロナに翻弄される開院になるとは思いもしませんでした。2020年4月に起きた新型コロナアウトブレイクでは多大なるご迷惑をおかけしましたが、その経験を最大限に活かしオープンに向けて感染対策に注力しました。

第一に院内での混雑を避けるために開院時間や受付開始時間を変更し、各科予約時間や化学療法枠・検査枠の調整、待合席の配置などに配慮しました。また院内に掲示されたQRコードで外来診察の進行状況をスマートフォンで確認できるため、離れた場所で待つことができるようになりました。自動精算機も新設し診察終了後の会計待ち時間が短縮される等、患者さんのご協力を仰ぎながら感染対策の密予防に努めています。



本館 1階・外来待合



診察待ち掲示板

2021年10月15日の駐車場を含めたグランドオープンまでは救急玄関がメインエントランスですが、入口には自動検温装置を設置し、新患や予約外患者さんへは新型コロナ感染症スクリーニングとして問診等を行い、院内各所に案内スタッフを配置して受診までの動線を分かりやすく説明しています。個人情報にも配慮し、診察や検査部門では個人名ではなく受付番号をモニターに表示して呼び出すシステムにしました。

新病院外来には1階に循環器内科、脳神経外科、感染症内科、骨軟部腫瘍科、リハビリテーション科、消化器内科、緩和ケア内科、血液内科、心臓血管外科、呼吸器内科、婦人科、皮膚科、眼科があり、2階に形成外科、乳腺外科、消化器外科、頭頸部外科、呼吸器外科、口腔腫瘍外科、歯科口腔外科、泌尿器科が、地下1階に放射線科が配置されています。

特に工夫をこらしたのが外来化学療法センターで、旧棟の3倍ほどに拡張されてアロマオイルが香る空間となっています。ベッドも30床に増床し、治療時間枠も細分化して増加する化学療法患者さんの利便性をはかり、センター内の2つの個室は陰圧室になっているため発熱患者等にも対応可能です。同じくセンター内にトイレ2室が備わったことでストーマ患者さんも安心して治療でき、面談室はオリエンテーションや家族面談に活用し温かな環境で治療継続できるようにしました。

さらに1階に中央処置室を新設し、救急患者の対応や胸腹水穿刺・骨髓穿刺などの処置や、輸血、補液、鎮静後の経過観察等を集約して行えるようになりました。ここにも陰圧室を完備し、感染症患者にも対応可能となっています。



入口の検温器



外来化学療法センターのアロマオイル



本館 2階・化学療法室



セブンイレブンとラウンジ

診療部門以外では1階には毎朝焼きたてパンを提供するカフェ・コアが、2階に入院必需品を取り揃えたセブンイレブンや院内レストランがあり、遅ればせながら外来Free Wi-Fiも始め、院内アメニティの向上に努めています。

入院前には新型コロナPCR検査をお願いするなど従来とは勝手が違い、ご不便をおかけすることも多いかもしれません、新型コロナ禍中でも安心して受診いただけるよう努力してまいりますので、何卒、ご理解をお願いいたします。

手術室

Operating room



手術部長
原林 透

手術部新棟移転しました

今回の新棟移転にあたり、手術部も3階南に移転しました。新しい手術棟は令和の規格で設計されており、ひろい廊下に最小限の保管庫と医療端末がおいてあるだけで、見ためもすっきりし患者さんの移動もとても楽になりました。旧手術棟の廊下をすすきのラーメン横丁の裏の路上駐車だらけだった通りとたとえるなら、今はあいの里のロイズ工場と公園だけがある産業道路のようです。手術室自体は、7室から一室増えて8室になりました。感染症対策として、専用の陰圧室を1室もうけました。換気回数も飛躍的に増え、結核、コロナに呼吸苦なく対応できます。また、無菌手術のための陽圧室も前室、補助室をセットでもうけられました。これで腫瘍整形外科の手術も他科と調整なしでできます。

すでに一台導入している手術支援ロボットに対応できる70平米のひろい手術室は2室となりました。3年前に多くの科に適応拡大されたロボット手術は今後も拡大していくことから、いずれ複数の部屋でロボット手術に対応する準備はできました。

手術の画像監視保存システムは、画像精細度が上昇し情報量がますます増えることに対応できるよう、現存のイーサケーブルですべての部屋と監視室、病院内のネットワークに接続できる先進的なシステムを導入し、まずは半分の部屋で運用できることになりました。システムの選定納入には事務の方々が奮迅の努力をしてくれました。10年後の未来にきっと感謝されるはずです。そしてWHOの指針によく準拠し、劇薬であるホルマリンを手術室の外で扱うために2階の病理部に直結のエレベーターで移動できるようになりました。

この快適な手術室で侵襲少ない安全な外科治療をおおくのみなさまに送り届けるよう一同精進します。



本館 3階・OPホールアプローチ



本館 3階・OPホール



ダヴィンチ手術風景



リハビリテーション科

Rehabilitation



本館 8階・リハビリテーション室

医長
小山内 俊久

ようこそ、リハビリ

リハビリ室は病院最上階の8階にあります。200m²の訓練スペースの北から西面に窓が広がり、豊平川に架かる水穂大橋、さっぽろテレビ塔、手稲山などが眺められます。暖かい日差しは、あなたを屋上テラスに誘い出しかもしれません。がんセンターがこうした環境をリハビリテーションのために用意したのには訳があります。

寝ている時、「起きていましょう」と言われたことはありませんか。それは、寝ている時間が長いと肺炎などの合併症が多くなるからです。動かないでいると体力が落ちて、治療を続けにくくなるからです。でも……、そんなの無理ですよね。だって、ベッドは横になるためにあるのですから。病衣を着て病室にいれば、寝てしまうのは当たり前です。

では、リハビリ室はどうでしょう。明るく開放的な空間では、誰もが前向きな気持ちになります。そして、自然と何かをしたくなってきます。私たちは病気と闘っている皆さんに、少しでも気分良く動いて欲しいと思いました。誰かにやらされるのではなく、自分からやりたくなるようなリハビリテーション、そのため用意した環境なのです。

コロナ禍の今、徹底した感染対策をとっているリハビリ室は、安心して運動療法を受けられる場所です。落ち着いた環境で行う作業療法、言語聴覚療法は、自分らしい生活を送るために役立ちます。リハビリ室へようこそ。病室にいては経験できない、心地よい疲れを楽しんでみてください。

緩和ケア

Palliative care



本館 8階・廊下



本館 8階・スタッフステーション



本館 8階・デイルーム・多目的ホール



本館 8階・家族室

新病院の8階に緩和ケア病棟が再開しました。

緩和ケア病棟は、手術や抗がん剤治療といった、積極的ながん治療を行うのではなく、病気の進行に伴う様々な苦痛に対して、それらを和らげる治療・ケアを行う病棟です。

病棟では『私たちは、あなたらしく安心して過ごせるよう支え続けます』の理念のもと、4名の緩和ケア内科医と病棟看護師が、からだや心のつらさを和らげ、その人らしく過ごせるように援助しています。

病室は、患者さんにそれぞれの時間を過ごしていただけるように、全室個室となっています。無料の部屋もありますが、有料の部屋には、シャワーを完備し、Wi-Fiが使え、ご家族が付き添えるようにソファーベッドも設置しています。デイルームから車いすやベッドでも直接出ることのできるテラスからは、テレビ塔や西に広がる山々を望むことができます。

今はコロナ渦で家族や付き添いが禁止されていますが、コロナが落ちついて制限がなくなれば、ご家族との時間を大切にしていただけるように、デイルームや家族控室等を準備しています。また、可能な限り自宅で家族と過ごしたいと希望される場合には、ソーシャルワーカーと協力して自宅でも安心して過ごしていただけるように調整を行っています。

現在、入棟する患者さんは、北海道がんセンターでの治療歴のある方を対象としています。外部からの直接受入院はお受けできませんが、今後体制を整え対応できるように努力していきたいと思います。

その他

the other

1 本館1階カフェ

旧棟でも人気のあった「Cafe Core」も新装オープンしました。有機栽培原料を使用したコーヒー、焼き立てパンのいい匂いが立ち込めていました。2階にはセブンイレブンもオープンしました！

**2 1階事務室**

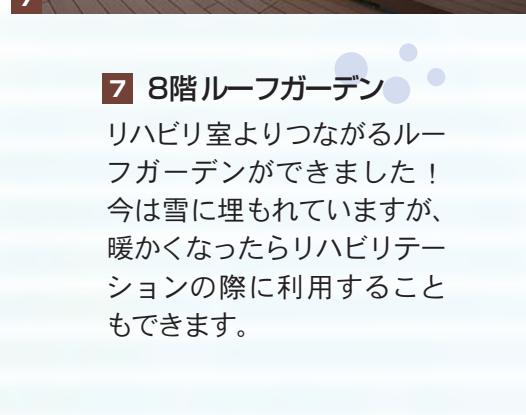
受付奥の事務には医事、経営企画室、緩和ケアセンター、地域医療連携室、がん相談支援センターが同居して、これまで以上に連携して業務が出来るようになりました。

**3 1階エレベーターホール（患者用）**

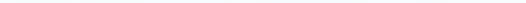
主に患者さんご家族が使用するエレベーターです。これとは別に職員専用のエレベーターもあり、導線を分けて運用しています。

**4 1階アピアランスルーム**

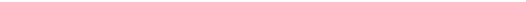
アピアランスルーム専用の部屋もあります。ウィッグ、ケア帽子、人工乳房、乳がん術後下着、ネイルなど展示しています。当院の受診有無に関わらず、どなたでも相談可能です。

**5 2階レストラン**

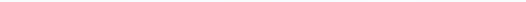
新規オープンのレストランです。充実したラインナップになっています。どなたでも自由にお食事いただけるので一度お召し上がりください。

**6 2階患者サロン**

患者サロン「ひだまり」も新しくなりました。今は新型コロナウイルス感染予防のためオンラインで患者サロンを開催しています。早く集まってお話ししたい！

**7 8階ルーフガーデン**

リハビリ室よりつながるルーフガーデンができました！今は雪に埋もれていますが、暖かくなったらリハビリーションの際に利用することもできます。



北海道がんセンター がん検診のご案内

● 4大がん検診

- ・腹部エコーにより肝臓を中心に観察
- ・胃内視鏡（胃カメラ）による上部消化管検診
- ・便潜血反応による大腸がんスクリーニング
- ・低線量CTによる肺がん検診
毎週水曜日 ①14:00 ②14:20 ③14:40
毎週木曜日 ①14:00 ②14:20 ③14:40

● 腹部3大がん検診

- ・腹部エコーにより肝臓を中心に観察
- ・胃内視鏡（胃カメラ）による上部消化管検診
- ・便潜血反応による大腸がんスクリーニング
毎週水曜日 ①14:00 ②14:20 ③14:40
毎週木曜日 ①14:00 ②14:20 ③14:40

● 低線量肺がんCT検診

一般的な肺CTよりも少ない被ばくでCTが受けられます。
月～金曜日 ①12:00 ②15:00

● 乳がん検診

マンモグラフィによる検診
(エコーなどのオプションもあります)
毎週 火曜日・金曜日 14:30～

● 婦人科がん検診

子宮頸がん・子宮体がん検診
(エコーなどのオプションもあります)
毎週月曜日 9:00～
毎週木曜日 14:30～

● 前立腺がんのPSA検診

採血後 2時間以内に泌尿器科医師より結果とその後の指示を受けられます。

完全予約制／月・木曜日 11:00

● 大腸がん検診

当院では予約日に消化器内科医師より直接検診結果を聞くことができます。

完全予約制／月～金曜日 14:00～

● 胃がん内視鏡検診

専門的な知識と技術を備えたスタッフが対応させていただきます。

完全予約制／毎週金曜日 ①9:00 ②9:20 ③9:50

● PET検診

全身を一度に調べることができます。
平日／月曜日～金曜日 10:30

予約受付センターの受付時間：毎週 月曜日～金曜日
電話による予約 13:00～16:00／窓口による予約 9:00～16:00

患者さんの権利

1. 人格が尊重され、良質な医療を平等に受けられる権利があります。
2. 十分な説明を受け、自分が受けている医療について知る権利があります。
3. 自らの意思で、医療に同意し、選択し、決定する権利があります。
4. 個人のプライバシーが守られる権利があります。

患者さんの責務

1. 良質な医療を実現するため、医師等に患者さん自身に関する情報を正確に提供してください。
2. 納得出来る医療を受けるため、良く理解出来なかった説明については、理解出来るまで質問してください。
3. 他の患者さんの医療及び職員の業務に支障を与えないようにご配慮下さい。

患者さんへのお願い

院内の取り決めを守り、病院職員と協同して医療に参加、協力することをお願いします。



〒003-0804

北海道札幌市白石区菊水4条2丁目3-54

代表 TEL (011) 811-9111

FAX (011) 832-0652

ホームページ

<https://hokkaido-cc.hosp.go.jp/>

QRコード→

● 相談窓口

がん相談支援センター

直通電話 (011) 811-9118

地域医療連携室

直通電話 (011) 811-9117

直通FAX (011) 811-9110

メールアドレス 100-mb05gas1@mail.hosp.go.jp

交通のご案内



【地下鉄】 地下鉄東西線「菊水駅」下車、3番出口より徒歩3分

【自動車】 病院裏の仮設駐車場をご利用いただけますが、台数に制限がございますので、来院の際はできるだけ公共交通機関をご利用下さい。